

【ヨネックス秋田マスタース 2018 バドミントン選手権大会レポート】

YONEX AKITA MASTERS 2018 BADMINTON CHAMPIONSHIPS

in CNA アリーナ★あきた



女子ダブルス松山奈未(手前)と志田千陽(奥)の試合の様子



女子シングルス準々決勝での川上紗恵奈。持ち前のねばり強さを発揮したものの惜しくも4強入りを目指す



志田とともに女子ダブルス準優勝と健闘した松山奈未



優勝を逃したものの女子ダブルス準優勝と健闘した志田千陽。後衛から打ち込むパワフルなスマッシュなど、スピードのある攻めで魅了した



女子ダブルス優勝の櫻本絢子(右)と高畑祐紀子(左)

撮影●榎野良孝 文●松橋隆樹

秋田に集いしバドミントンの国際大会 196選手の熱戦!

秋田初のバドミントン国際大会ヨネックス秋田マスタース2018。世界トップの次代を担う若手有望選手たちがCNAアリーナ★あきたで熱い戦いを繰り広げた。

世界16の国と地域から196選手が出場して、バドミントンの国際大会として秋田県で初の開催となる「ヨネックス秋田マスタース2018」が、7月24日から29日の6日間、CNAアリーナ★あきた(秋田市立体育館)で行われた。

女子ダブルスでは、八郎潟町出身の志田千陽、松山奈未組(再春館製薬所)が1回戦から順調に勝ち上がり、日本勢同士の対決となった決勝。櫻本絢子、高畑祐紀子組(ヨネックス)に敗れて1週間前のシングポール・オープン決勝の雪辱は果たせなかったものの、故郷の大舞台で見事に準優勝を果たした。

女子シングルスでは、川上紗恵奈(北都銀行)が準々決勝で漆崎真子(山陰合同銀行)と対戦、3セットともに1点を争う激しい攻防を繰り広げたものの、惜しくも敗れて4強入りを目指した。決勝は漆崎と高橋沙也加(日本ユニシス)による日本勢同士の対決となったが、第3セットにもつれ込む接戦を高橋が制して、シングポール・オープンに続く優勝を果たし、自身の26歳の誕生日に花を添えた。中村優里(北都銀行)は1回戦で林湘(台湾)と対戦したが、ラリーでのミスが響いて0-2で敗退した。男子シングルスに登場した日本B代表の奈良岡功大(青森・浪岡高2年)は、1回

戦は持ち味を発揮してピッセン・ロウ(オーストラリア)に快勝したが、2回戦でシットヒコム・タンマシン(タイ)に0-2で破れた。大会期間の6日間で延べ6,700人の観衆が訪れて、世界トップレベルのプレーに酔いしれた。



最終結果

男子シングルス	
優勝	シットヒコム・タンマシン (THA)
準優勝	イーサン・マウラナ・ムストファ (INA)
男子ダブルス	
優勝	アクバル・ピンタン・チャフヨノ・モー・レザ・パフレヴィ・イスファハニ (INA)
準優勝	橋本 博且・佐伯 祐行 (JPN)
女子ダブルス	
優勝	櫻本 絢子・高畑 祐紀子 (JPN)
準優勝	松山 奈未・志田 千陽 (JPN)
女子シングルス	
優勝	高橋 沙也加 (JPN)
準優勝	漆崎 真子 (JPN)
混合ダブルス	
優勝	権藤 公平・栗原文音 (JPN)
準優勝	アルフィアン・エコ・プラセティア・アンジェリカ・ウィラタマ (INA)